

## 施設栽培イチゴの就農支援プロジェクト「いちごスクール」開校式 4人が入校 イチゴ栽培学び、専業農家目指す

JA西三河・JAあいち経済連・西尾市・愛知県とJA西三河いちご部会などで組織するJA西三河いちご産地振興委員会は5月31日、施設栽培イチゴの就農支援プロジェクト「いちごスクール」第1期の開校式を開催します。

この日4人の受講生が入校。受講生らは6月から西尾市内のイチゴ農家圃場で研修を開始します。並行して県の就農支援制度の申請や栽培施設の建設などを行い、2020年11月からの本格出荷を目指します。

「いちごスクール」は、施設イチゴ栽培での就農を目指す方を対象とする就農支援プロジェクトです。栽培技術などを生産者が直接指導する実務研修から、経営研修・農地取得・補助金申請などをセットに、新規就農・1ターン就農者を専業農家まで育成します。

### ■開校式 日程

【日時】5月31日（金）午前10時～  
【集合】西尾市役所4階 41会議室

みんなが大好きないちご。  
西尾で作りませんか？  
愛知県内トップのいちご産地で農家になる！  
JA西三河いちご産地振興委員会  
JA西三河 農産部 電話販売課  
TEL.0563-56-5272

「いちごスクール」ポスター

### ■「いちごスクール」2期生 受講生募集中！

JA西三河いちご産地振興委員会は4月1日より、「いちごスクール」第2期の参加を希望する新規就農者の募集を開始しています。

受講希望者は、JA西三河本店営農部指導販売課と小牧センターに用意する申込書・履歴書に必要な事項を記入し、必要書類と合わせて直接持ち込みまたは郵送にて申し込みいただけます。また、必要書類の様式はJA西三河ホームページでもダウンロードできます。

今年度の応募者は、JAによる書類審査や面談、現地説明会（2020年1月～3月を予定）を経て、2020年6月頃から2021年5月までの1年間、施設栽培イチゴ栽培を学びます。



#### 【お問い合わせ・ご連絡先】

JA西三河（西三河農業協同組合）  
〒445-0073 愛知県西尾市寄住町下田15 企画室企画課 広報担当：岡田  
TEL：0563-56-5214 担当者携帯：070-1414-4251  
HP：https://www.ja-nishimikawa.or.jp/ Eメール：kikaku@ja-nishimikawa.com

# 施設栽培イチゴ就農支援「いちごスクール」

～「イチゴ産地・西尾」長期発展に向け、新規生産者の育成めざす～

## ■「いちごスクール」設立の経緯■

西尾市は愛知県内で1位のイチゴ生産量（953ト）を誇る大産地です。しかしJAの将来予測では、部会員の高齢化と後継者不足に伴う将来規模縮小が見込まれており、対策が急務となっていました（※）。

上記の問題への対策のため、JA西三河いちご部会とJA西三河・JAあいち経済連、西尾市・愛知県は2016年6月、部会の中心的農家やイチゴの担当者などをメンバーとして「JA西三河いちご産地振興委員会」を設立しました。

同委員会が主体となり、新規就農希望者の研修・受入の仕組みづくりを通して長期にわたる産地規模の維持・拡大につながることを狙いとして立ち上げられたのが、「いちごスクール」です。

（※：新規参入がなかった場合、2027年までの10年間で約35%の産地縮小と推定）



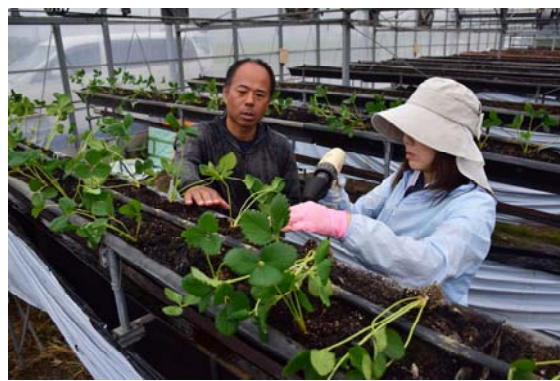
いちごスクールのポスター

## ■いちごスクールのカリキュラム■

受講生は2019年6月から2020年5月までの1年間、西尾市内のイチゴ農家圃場で、栽培技術や収穫・パック詰め等の直接指導を受けます。

また、愛知県立農業大学校の講座を利用し、植物の生理特性や肥料・農薬、経営管理や税務に関する知識といった、専業農家として経営を行う上で必要な知識を習得します。並行して農地取得や栽培施設の準備、青年等就農計画や農地利用権設定の申請などをJA西三河のサポートのもとで順次行い、2020年11月にはイチゴ農家として本格出荷を行うことをめざします。

（日付は第1期、変動の場合があります）



事前説明会の際、イチゴ苗の定植を体験する受講希望者と指導する農家（2018年9月）

## 研修内容・カリキュラム

項目	内容
基礎研修	生理生態・品種特性等、肥料・農薬、施設設備等、栽培の知識
実務研修	受入農家にて栽培技術、収穫・パック詰め等の出荷調整
経営管理	施設投資、税務申告等の経営に必要な基礎知識
就農準備	農地取得・資金調達等の就農に必要な知識・手続き
視察・交流	JA西三河いちご部会部会員との交流

※実務研修は西尾市内のイチゴ農家の施設で行います。研修先の農家により研修のスケジュールは異なります。

# 西尾市のイチゴ生産の概要

～県内一の大産地、安全・安心なイチゴ生産と高単価取引めざす～

## ■西尾のイチゴ生産の特徴■

J A西三河いちご部会では89人の生産者が高設栽培（章姫）・土耕栽培（紅ほっぺ）でイチゴを生産しています。生産量953トンは県内トップ。加温したハウスの中で11月から5月頃まで長期にわたる出荷を行っています。出荷量のピークは5月頃。

毎年冬には、需要の高いクリスマス時期に最初のピークを合わせるよう栽培を調整。この時期には業務用イチゴ（主にクリスマスケーキ用）の出荷も行い、安定した高品質が製菓業者に高く評価されています。



小牧センターでの出荷作業

## ■「虫」をもって「虫」を制す

### 天敵の利用で農薬使用を抑制■

同部会では農薬（殺虫剤）の利用の抑制とコスト低減・省力化のため、天敵（害虫を捕食する別の虫など）を利用した防除を行っています。イチゴの重要害虫であるハダニ対策として、ハダニを捕食するダニの「チリカブリダニ」等を導入し、農薬の使用を抑えつつ高品質のイチゴ作りにつなげています。



天敵資材を設置するイチゴ農家

## ■4月の朝採りイチゴ

### より新鮮でおいしいイチゴ出荷めざして■

同部会では毎年4月、「朝採りイチゴ」の出荷を行っています。「朝採りイチゴ」は市場では『午前0時以降に収穫し、その日のうちに小売店へ届く』ものと定義されています。

農家は毎日午前2時～3時ごろから収穫作業を行い、午前8時には小牧センターへ出荷。昼から夕方ごろには西尾市周辺のスーパーに並びます。

春を迎えて気温が上がると、収穫後のイチゴの品質低下が早まります。朝採りの取り組みにより、通常の出荷（午前中～昼間に収穫・箱詰め、夕方～夜に集出荷、小売店の開店時間から販売）よりも運搬時間が短く、消費者へより新鮮なイチゴを届けることができます。また農家は高単価で取引でき、収益を増やすことができます。



朝採りイチゴの出荷

### 【生産者部会情報】

名称：J A西三河いちご部会

部会員数：89人 耕作面積：約17.1畝

流通先：愛知県・石川県・新潟県

出荷量：953トン（平成29年実績、業務用出荷等含む）（愛知県では市町村単位で1位）

収穫期：11月～6月（ピークは4月）

### （全国の生産概況）

全国のイチゴ出荷量：150,200トン

愛知県のイチゴ出荷量：9,410トン（東海地方では静岡県（9,950トン）に次ぐ2位）

データ：農林水産省 作況調査（野菜）平成29年度確報